

京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町30-2
 ラポール京都5階
 京都原水爆被災者懇談会気付
 TEL 075-811-3203
 FAX 075-811-3213
 HP <http://aogiri2-3.jp>

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation Hibakusha(Atomic Bomb Survivors)



新春6・9行動でも能登半島地震被災者救援活動（清水寺）

被爆二世・三世健康調査アンケート結果報告書が完成しました！	2
12月23日・2023年度被爆者をはげますつどいに100人	4
核兵器域廃絶に向けて ～ サントメ・プリンシが70カ国目の核禁条約批准	5
会員のみなさんの2024年度メッセージ	6
福島取材報告No.4 汚染水放出は農業では実害が出ている 米重節男	14
本・DVD・映画・番組の紹介と交流	15
「なぜ日本は原発を止められないのか」	18
SCRAPBOOK 「米での証言活動に手応え 長崎県被爆者手帳の会」(西日本)	18
編集後記	19
2024年2月行事カレンダー	20

被爆二世・三世健康調査アンケート結果報告書 が完成しました！

■2020年からとりくんできた京都「被爆二世・三世の会」の「被爆二世・三世健康調査アンケート」、その結果報告書が完成

(1) アンケート期間と回答者数

- ① とりくみ期間は2020年4月から2024年8月までの3年8ヶ月。新型コロナウイルス感染拡大時期と重なり、思うようにとりくみをすすめられない時期もありました。
- ② アンケートの回答者数110人(二世102人、三世8人)です。
 - ・ 京都在住者だけでなく全国の二世・三世にもアンケート回答の協力をよびかけました。

(2) アンケート内容ととりくみの特徴

- ① 森川聖詩さん(神奈川県原爆被災者の会二世・三世支部)が著書『核なき未来へ』で著された半生の健康障害事例を列記、同じ障害体験の有無を尋ねる方法を採用しました。
- ② できるだけ直接面接による聞き取り方法を追求しようとした。但し結果的には本人筆記による回答も多数を占めました。



■「健康調査アンケート」の結果から見えてくる被爆二世の実像

- (1) 31.3%は健康障害を経験してこなかった人たち
- (2) 森川聖詩さんとの共通体験
 - ① 幼い頃から虚弱、疲れやすい、しばしば体調を崩し、風邪をひくと長引き、怪我をすると傷口が治りにくい等々多くの人が共通体験。
 - ② 成人した今日まで深刻な健康障害が続く。
- (3) 被爆者と同じ11障害の共通体験
 - ① 呼吸器機能以外すべての病気に被爆二世も罹患。
 - ② 特になんが、白血病、糖尿病、甲状腺機能低下症、白内障等の罹患体験は際立って多い。
- (4) アンケートの自由記述で赤裸々に語られる被爆二世の姿 ～ 健康障害は多岐にわたる
 - ① 体が弱い、疲れやすい
 - ③ 寝ていること、休んでいることが多かった
 - ④ 貧血が多く倒れることも
 - ⑤ 足の痛みや関節痛、骨折など
 - ⑥ 特に夏や冬、季節の変わり目に弱い
 - ⑦ 冷え性、暑がり、多汗症
 - ⑧ 風邪にかかりやすく、治りにくい
 - ⑨ 副鼻腔炎にかかり、トラブル、不快感
 - ⑩ めまいや吐き気、頭痛

- ⑪ ケガをしやすく、治りにくい
 - ⑫ 胃腸が弱く、深刻な下痢
 - ⑬ 歯のトラブルを抱えてきた人たち
 - ⑭ 目が弱く、極端にまぶしさを感じるトラブルなど
 - ⑮ 心臓、腎臓、肝臓などのトラブル
 - ⑯ がん、良性腫瘍
 - ⑰ 脳梗塞と後遺症、精神疾患を抱えて
 - ⑱ 「止まってしまう」症状
- (5) この世の光を受けることのできなかつた二世たち

■「結果報告書」に基づく当面の行動

- ① 2月7日(水)厚生労働省への要請行動の参考資料として提出します。
- ② そのことに先行して2月1日(木)記者発表で報告します。
 - ・ 14時から、オンライン
- ③ アンケート活動に組織的に協力いただいた「神奈川県原爆被災者の会・二世・三世支部」と「岡山『被爆2世・3世の会』」へのお礼と報告をします。
- ④ 1月28日(日)神奈川県二世・三世支部公開講座で報告します。
- ⑤ アンケート回答者110人のうち、希望されている方へ結果報告書をお届けします。
 - ・ 郵送のための作業の準備を開始します。
- ⑥ 全国の被爆二世・三世の会、関連諸団体、交流のある個人のみなさんに、今回のアンケート活動の結果を報告し、普及していきます。

■この報告書を基に、被爆二世・三世の健康実態がさらに広く、深く見直されていくことを期待し、被ばくによる世代を超えた影響(遺伝的影響)の真実に迫っていきます。

■早速、神奈川県原爆被災者の会二・三世支部の門川恵美子さんから感想を寄せていただきました。以下紹介です。

京都のみなさん、本当にありがとうございます。

100名ほどとはいえずぶさに調べていただき、まだ詳しく読みこなせてはいませんが多くの健康についての苦しみが次から次へと伝わってきて、あっ同じだと思ったり、みんな被爆者と同じように自分の身体と向き合い、病気と闘っているんだなあと思ったり、はやくみんなに読んでほしいと思っています。

そうしている間に、二世の方から電話があり、最近の病気の状況を聞きました。厚労省交渉の時話してもいいかと聞くと、ぜひ話してくださいとの返事でした。神奈川の医療費助成の対象外の問題です。国の支援がないとそういう苦しみは救えないです。いくらお金をもらっても病気が治るわけではないけれども国からも支えてもらえるということはこれから生きていってもいいんだという安心感につながります。私たちの統一要求はみんなの声だと確信しました。

その人はこのアンケート調査が始まってから早くに守田さんが具合の悪いその人を何度も訪ねて聴き取り調査をしてくださったといいます。

京都の会のみなさん 本当に大変な調査のまとめありがとうございます。
全国の二世、三世を励ましていく大切な調査結果となります。

また新たに自分たちもやってみようというように広がっていくかもしれませんね。

被爆者を励まし、共に核兵器廃絶を誓う！

12月23日・2023年被爆者をはげますつどいに100人

12月23日(土)、60回目を迎える「被爆者をはげますつどい」が催されました(ラポール京都)。京都府在住を中心にした被爆者のみなさんが30人、ご家族や付き添いの方々が12人、被爆二世が14人、被爆者のみなさんを応援し交流を深めるために駆けつけていただいた方々が42人、当日の運営をスタッフとして支えていただいたみなさんも含めると合わせて100人を超える“つどい”となりました。

当日までにたくさんの方々から被爆者支援募金と、モチーフ(ひざ掛け)などお見舞い品・Xmasプレゼントをご用意いただき、“つどい”の冒頭被爆者の方の代表に贈呈、手渡されました。

昨年と同様、出席された被爆者の方ひとり一人の自己紹介と近況報告が行われました。今年は、出席できない方のためのビデオ収録も行い、それを当日の会場での上映も行われました。

来賓として出席された井上哲士参議院議員(被爆二世)から先日の核兵器禁止条約第2回締約国会議の内容が報告され、いよいよ条約を中心にして核廃絶運動にとりくんでいこうと呼びかけられました。

児童劇団やまびこ座によるエイサーが3曲上演され、会場は大いに盛り上がり、被爆者のみなさんを勇気付け力づけることになりました。

その他、新婦人京都府本部の高校生の絵展のとりくみ紹介、増田正昭さんの「被爆者の肖像画」贈呈式も行われ、あっという間の2時間でした。「来年もまたお会いしましょうね」と、被爆者同士の約束を交わしながら別れを惜しみました。

当日の“つどい”の様子は後日YOUTUBE配信され、多くの皆さんに視聴していただけるようになりました。



核兵器廃絶に向けて

サントメ・プリンシが核兵器禁止条約を批准 70ヶ国目

■サントメ・プリンシは西アフリカのギニア湾に浮かぶ島々からなり、人口は約22万7千人の国です。アフリカでは16ヶ国目の批准国となりました。

国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」のパーク事務局長は、多くの国が核兵器禁止条約に参加することで、「核兵器は容認できないとする新しい国際的規範が強化される」と指摘。サントメ・プリンシに続いて、今年さらに多くの国が条約に署名・批准するよう期待すると語りました。



2024年1月22日現在 核兵器禁止条約批准国70ヶ国



1月22日(月)は核兵器禁止条約発効3周年 世界で、各地で、お祝いと記念行動が催されます！



健康アンケート調査結果報告を原点に!!



会員のみなさんの2024年メッセージ

■今回こそ善戦ではなく勝利を!

井坂博文（北区）

みなさん、「明けましておめでとうございます」という言葉がはばかりような年明けとなりました。元日に発生した能登半島地震に衝撃が走りました。亡くなられた方に哀悼を表するとともに、災害に合われたみなさんにお見舞いを申し上げます。



昨年9月から始まった国政予定候補の活動とともに、市議員32年の活動の経験を活かして市長選挙勝利で福山市長を実現させるために全力をあげます。

能登半島地震を受けて自治体のあり方が鋭く問われています。北陸新幹線延伸計画、京都に大地震が発生した時にその大半を地下トンネルで走る新幹線が大丈夫なのか不安が高まっています。しかも当初建設費の2兆1千億円が4兆円にもなると言われています。「できるかどうかわからない30年先の新幹線より今日乗るバスを」です。

大阪・関西万博も見直すべきです。昨年末に近畿ブロックの主催で夢洲の現場を視察しました。関西の焼却灰と建設残土と大阪湾の浚渫土砂の埋め立て地という軟弱地盤の夢洲に巨大パビリオンなどもってのほか。「際限なく建設費が膨張する万博にかかるカネを能登半島被災地の復興に回すべき」の声が出るのは当然です。

さらに公共の力を発揮する自治体の実現が求められています。今回の選挙で引退する門川市長が16年前に「乾いたタオルを絞るような行革」と公約し初当選し、4期目当選したのちの2020年8月の「社会的な課題の解決を行政が税金でやる時代は終わった」という訓示。その通り、「行財政改革計画」による敬老乗車証値上げ、民間保育園補助金カットなど市民サービスを切り捨てました。消防職員381人、区役所職員も大幅に減らされました。今回の能登半島地震で京都市消防隊から職員が派遣されました。正月返上での奮闘に頭が下がりますが、「美談」に終わらせてはなりません。災害者救助や避難所運営に責任を持つ自治体をつくること。それこそ福山さんの言う「市民や区民の役に立つ所が市役所、公役所」です。福山さんは門川市長の「行財政改革」を撤回し、敬老乗車証制度を元に戻し、被災者住宅再建支援制度や住宅耐震化のためのリフォーム助成の復活を公約に掲げています。福山市長の実現で「市民の暮らしと安全第一」の市政をつくりましょう。

今回の選挙、現職の門川市長は立候補しません。私も京都市の同和行政のあり方で丁々発止論戦した局長を務めた職員OBの方から連絡がありました。「自ら事務所に連絡して、今回門川さんが出ないから義理も厄介もない。市民派ボランティアとしてお手伝いしたい」と。オセロゲームのように「今度は福山さん」という方が生まれています。京都市内を駆け回って福山市長実現に全力をあげます。

■会報の「本の紹介」の目標200冊

石角敏明（長岡京市）

あけましておめでとうございます。

2024年になりましたが、特別に「これを」という決意を固めるような状況では無いような状況だと思っております、今年も、「何も」特別な

ことをするのではなく、地元での毎月11日の「さよなら原発」のアピール活動、「9日」「19日」の「九条の会」のアピール活動に参加することが目標・課題です。

そして、個人的な思いとしては、「会報」で毎月紹介させて頂いております「本の紹介」、200冊を目標にがんばりたいと思っておりますが、紹介の文章の内容は少しも上達していないと反省しております。少しでも「本の内容・素晴らしさ」が皆さんに伝わるよう頑張ることが大きな目標でしょうか、今年もよろしくお祈りします

■みんなが幸せを思える世の中に

市田里佳（向日市）

新年早々の大災害。無力感の中で過ごしています。

災害以外にもコロナ、戦争、地球温暖化、処理水の海洋放出など、もうここ数年心から平穏だと思う日はありません。いつも心の中に虚しさや怒りがあって、そんな思いに疲れてしまう時があり凹みます。

友人は福島原発事故で京都に移住を余儀なくされました。彼女は事故以来「明けておめでとう」の言葉を口にできないままです。彼女を思う時、自分だけ良くて幸せではないとあらためてそう思います。

みんなが幸せと思える世の中になってほしい。前を向いてしっかり生きねばと思います。

■お金で動く政治でなく、命こそ第一の日本へ、 井上哲士（左京区）

激動の年明け。元旦に発生した能登半島地震で3日に輪島市へ。建物倒壊や火災による甚大な被害に言葉を失いました。道路が寸断されて支援物資が届かず、避難所で食事もない状況でした。



自治体職員や医療・介護の体制が削られてきたことも困難が続く一因です。支援の抜本的強化の必要性、「公共」の役割を痛感しています。

志賀原発の前も通りましたが、次々とトラブルが発生し、想定以上の揺れも観測されました。大地震になれば避難などでできず、実効ある避難計画など作れないことが明らかになりました。廃炉しかありません。

8日には私が事務局を務める「非核の政府を求める会」が東京で開いた新春シンポジウムに参加。核兵器禁止条約の第二回締約国会議に参加した3人を含む報告で、条約が実効力、規範力を高め世界に希望の光を放っていることが生き生きと語られました。

核兵器も原発もゼロに。お金で動く政治でなく、命こそ第一の日本へ、京都市長選挙、総選挙勝利を。新年からダッシュです。

■攻撃を止めるために行動していきたい

岸下あづみ（右京区）

世界で起こっている出来事に胸が詰まる思いです。改めて、平和が何より大切だと感じています。攻撃を止めるために行動していきたいと思えます。

■来年は戦後80年、あの戦争を体験、生きてきた人たちがこの世を去っていく

まっちー（木全満知子）（和歌山県橋本市）

新年そうそう、石川県能登半島地震、飛行機事故に、心よりお見舞い申し上げます。

すぐ逃げる、立ち止まらない、ふりむかない 一つの間にか忘れていたこの感覚。

平成の後半から令和にかけて日本は、大きく様相は変わった。変動した。

昭和は戦争、平成は自然災害、平成から令和はそこへ感染症コロナの流行。

そして、まさか、戦争はしないだろうと思っていた、ウクライナ、イスラエル戦争が勃発し、しかも長期化しそうである。

来年で戦後80年、あの戦争を体験、生きてきた人たちがこの世から去っていく。危機が迫っている。

職業軍人だった祖父、シベリア抑留体験を持つ父

親。
 被服支廠に務め、船の底に乗って、スパイに行くはずだった母親（軍人の娘であったから）。
 母親の実家へ夏休みに行った時のこと、原爆資料館に入館して直ぐに見た光景は大人になっても夢に出てきて怖かった。
 手の先から皮膚が流れ落ちてる。
 こんな思いを子どもに、孫にも味わってほしくないと思っている。この世の地獄を見せたくない。神社、お寺に、行って願うことは「世界平和」です。
 戦争は、人口が増えると減らすためだと習った人は、生きていくために、食糧がいる、確保しなければならない。エネルギーもいる。
 飛行機事故で思ったことは防災の訓練、リーダーは、あわてさせない。落ち着き、まわりを落ち着かせる。
 人は生きて、生きて、行かねばならない。
 この時期、「信仰とは？」
 「災後」に適切に対応する力がある。

■核兵器廃絶、原発反対の福山和人さんを京都市長に

國府幸代（北区）

謹賀新年 今年もよろしくお願ひいたします。
 今年の1月から京都市長選挙の公示が出される。京都市は世界中から注目を浴びている都市なので、核兵器反対、原発反対を訴えている、福山和人さんを私は応援します。京都市長になられたら、核兵器反対の市長署名をしてもらいたいと思っています。世界で唯一の被爆国である日本の政府が批准しないのはおかしいと他の国々から指摘されていても、平気でいられる行為は日本人としてもとても恥ずかしいと思っています。
 2月13日（火）から18日（日）まで、広島で増田さんの被爆者の肖像画展が開かれます。私の母と私の肖像画も展示されるので2月17日（土）に広島に行って参加したいと思っています。

■平和の努力を！声を上げ続けていきたい！

小林こうき（宇治市）

23年はTV Newsを見るのがしんどい一年。終わりが見えないウクライナ戦争、新たなガ

ザ空爆、核攻撃も「選択肢」の発言。犠牲になるのは子ども・女性など市民である。11月に鹿児島で開催された日本平和大会に参加して、南西諸島の軍事要塞化が進む九州・沖縄の代表の発言に日本の軍拡・増税の実態に怒りをあらたに。日本の政治はどうして変わらないのだろう……。核兵器禁止条約に日本政府は「なぜ参加しないの？」、「原発事故から何も解決していないのに再稼働・運転延伸なの」、「沖縄県民の「新基地いらぬ」の声を聞こうとしないの」……。日本には憲法9条があるじゃないの！、「平和の努力を！」声を上げ続けていきたい。

趣味の芝居鑑賞、前進座・初春特別公演で幕開け。京都労演は2月例会加藤健一・佐藤B作「サンシャイン・ボーイズ」公演から。これも平和であればこそその楽しみです。



伏見神宝神社おみくじ

■親子一緒に無事年越し

佐々本好信（右京区）

本年もよろしくお願ひいたします。
 私たち親子は無事に年を越せました。父親は座ることが少し難しくなってきましたが、声が大きいので少し安心しています。
 みなさんも良い年でありますように祈っております。

■子どもたちとの触れ合いと交流―「一期一会」を楽しみたい

庄田政江（大阪市平野区）

皆様、今年もよろしくお願ひ申し上げます。
 年が明けるなり、能登半島は地震に見舞われ犠牲者の数が日毎に増え心を痛めています。亡くな

られた方々のご冥福と行方不明者の1日も早い救出を願っております。

昨年は増田さんに肖像画を描いて頂き、年末には「被爆者をはげますつどい」で絵の贈呈式をして頂き、楽しい一時を過ごすことができました。

明日10日は広島に行き、平和記念資料館で5回目の伝承講話をしてきます。今年はいよいよ念願の学校等への派遣も始まるので、心を引き締め取り組んで行きたいと思えます。

今の子供達が私の講和をどこまで理解してくれるのか・・・ちゃんと心に響いてくれるかしら？でも何より、子供達との触れ合いや交流を通じて「一期一会」を楽しみたいと思えます。

昨年は草津・四万・法師と温泉めぐりをしたので、今年は秋に奥入瀬・十和田に行く計画です。



■「健康アンケート調査報告書」は私たちの運動の原点

平 信行 (南区)

2020年から行ってきた「被爆二世・三世の健康調査アンケート」、昨年末やっと報告書が完成しました。この報告書を力に被爆二世・三世の健康問題にとりくんでいく、2024年度はその原点です。100人のアンケート回答から明らかになった被爆二世・三世の詳細な健康実態を世に明らかにしていきたいと思います。被ばく2世・3世は広島・長崎の被爆者の子や孫だけではありません。地球的規模で行われてきた核実験、ウラン採掘に始まる核物質の生産と加工、運用管理、原発運転と事故に等々、核被害は多岐にわたりその被害は計り知れません。そしてみんな2世・3世がいます。あらゆる核被害者の救済を求める運動の、私たちはその一端にあることを、あらためてしっかりと自覚して歩みを強めていきたいと思います。

2021年発行の本『男が介護する／津止正敏

著／中公新書』を読んで、夫や息子が家族を介護する男性介護者が今や100万人を優に超え、主たる介護者の3人に1人は男性であることを知っていました。そして昨年2023年、突然、私自身もその一人になりました。いつかはそんな日が来るのではないかと予想はしていましたが、こんなに早く訪れるとは・・・。家族を介護しながら、まだまだ日々新しい発見、新しい事態へ遭遇する毎日です。ところで、私たち京都「被爆二世・三世の会」の会員のみなさんを見回してみても、同じように家族の介護に携わっている、あるいはそれに近い生活をしている会員が他にも何人かおられることに気がきます。家族の介護のことについても、励まし合い、交流できる会員同士の関係を、2024年度は是非作りたいと考えています。介護を伴う家族環境は、これからもっともっと多くの人が同じような体験をしていくことになると思えます。

■親孝行できるのも今のうち

谷口公洋 (城陽市)

昨年の選挙で、反戦平和の貴重な議席を失い申し訳ありませんでした。

今年も様々な選挙があります。ほとんど壊れてしまった日本の政治を、皆様同様にどうしても元から変えなくてはならないと決意しています。

健在の母親(96歳)は、あれこれあった後に姉の家に引き取られ暮らしています。短期記憶は失われつつありますが、まだまだ生きる力は残っています。この間に思ったのは、姉と妹を含めて私が一番母親に似ているということでした。親孝行できるのも今の間と心得、出来るだけ帰省して後悔しない様にしたいと考えています。

■戦争はやめろ！基地はいらない！いのちを守れ！気付くまで言ってやる！

月下星志 (広島市東区)

2007年夏、ウクライナのキエフを訪れた。首都ではあったが、のんびりとした街。だから、長い長いエスカレーターに乗って、地中深くまで降りていく地下鉄に違和感があった。東京のような地下鉄だらけの都市なら分かるけれど。2022年、ウクライナ侵攻のニュースで、地下鉄の駅

に逃げ込む市民の映像を見て納得した。最初から地下鉄がシェルターとしての役割を担っているのである。その後、キエフからポーランド経由でパレスチナ、イスラエルを訪れた。ヨルダン川西岸地区南部の都市ヘブロンは、イスラエルの入植が進み、子どもたちが遊ぶすぐ横で、銃を持ったイスラエル兵が監視する。世界には、日常の中に戦争がある状況が少なくない。沖縄では、今も日常の中に戦争があり続けている。日常の中にあるということは、生活が破壊されることである。

広島に転勤してきた知人が、「カープが日常の中にありすぎて、気分がいいもんじゃない」とぼやいていた。少し申し訳なくなった。その人の前では、カープの話は控えめに、スマホでの結果チェックもこっそりと。言われなければ気付かなかった。だから、言ってやろう！戦争はやめろ！基地はいらない！いのちを守れ！気付くまで言ってやる！

今年もどうぞよろしくお願いたします。



道には、車が行き来できないように大きなコンクリートブロックがイスラエルによって置かれている。真ん中の奥にあるのは、検問所。(ヘブロンにて)

■戦争や災害や事故で家族を失うことのつらさがどれ程か

鳥羽洋子（大阪府茨木市）

皆様、新年おめでとうございます。

今年は厳しい幕開けになりましたね・・・(私は年女ですので余計に堪えます。)ですから、今年の抱負というより願いになると思いますが、「世界に、日本に、平穏な日常を取り戻す」に尽きると思っています。

去年は、母と私の平穏な暮らしが私の怪我であつと言う間に崩れてしまったことで、改めて「老老介護」の難しさを感じました。また、それを乗り切れたのは家族のサポートのお陰、と痛感しています。だからこそ、戦争や災害や事故で家族を失うことのつらさがどれ程か想像するといたたまれない思いです。何とか自分にできることからやっていきたいと思います。

■今年の抱負

西村八郎（南区）

私事ではマンションの管理組合理事長を務めあげること。

そう言えば、去年の例会で私の発言で、私の妻が目が不自由になって・・・と発言したら、例会のほとんどメンバーから異様な目で見られ、私としては心外だった。私の中に妻に対する差別意識はない。表現の自由だと思う。

南区憲法九条の会の共同代表となって平和運動を頑張る。人に寄り添う事を信条としている。何としても身体が一番だ。

■『はだしのゲン』アニメに感動

花岡和子（京田辺市）

あけましておめでとうございます。

地球上から戦争がなくなることを願いますが、ますます広がっています。自然災害とはいえ石川地方の地震、羽田空港の飛行機事故、なんという年の始まりなのでしょう。心が痛むのでニュースはあまり見ないようにしています。今年は後期高齢者になります。あちこち痛みますが、出かけて歌ったり、絵手紙などやっています。

最近の新聞で戦争から生還された方のことを伝える記事がありました。戦場で人を殺したり、とても苦しい経験をしたりして、酒びたりになったり、暴力的になったりされた方の家族の話でした。私の父は山口県から広島へ帰ったようですが、その時の話はまったく話してくれませんでした。戦争や原爆のことは話したくなかったのでしょうか。

初めて『はだしのゲン』をアニメで見ることができました。ゲンの元気な時の様子、被爆後燃え盛る家に家族を置き去りにしていく悲しさ、お母

さんと二人でたくましく生きていく姿に感動しました。

■家族それぞれが新しいステップに踏み出す2024年

藤井信也（宇治市）

2024年 今年は個人的な環境として次のステップに行く年かな？と。

私の年齢的に遅くに生まれた娘が高校卒業。今現在大学受験の真っ最中。合否 いずれにせよこの4月からは新しい生活をおくることとなります。

私はこの機会に、車を乗り換えようかなと思います。家族使用を重視して乗り継いできた車ですが自分仕様に切り換えようかな。

妻は定年を迎え、来年からは再雇用の待遇に。家族それぞれが新しいステップに踏み出します。

まだまだ山あり谷ありの人生ですが、人として普通に生きられることが一番幸せなのでしょう。

しかし今の世の中、人として普通に生きることができる世の中でしょうか。疑問。

当面、京都市の人たちが次のステップに行かれることに自分も微力ながらの応援をするとともにその力を、今度はもっと広い範囲に広げることになり繰り返しになりますが微力ながら、細々と気長にやるしかないですね。

■孫娘を連れて広島原爆資料館に行きます！

古田京子（八幡市）

「やりたいと思いつたら、まずやってみる」そんな一年にしたいと思っています。

忙しい、難しそう、一人では無理、ちょっと面倒等々、なんやかやと理由をつけて、やりたいことを後回しにしているうちに、なんもせずに時間が過ぎていってましたが、それはあまりにもったいない！ まず動く！ことにします。

それとともに、少しずつでも両親のことを若い世代に伝えたいともっています。2月には今年成人式を迎えた孫娘を連れて広島に行きます。彼女には初めての原爆資料館の見学で、両親のデータが保存されている広島原爆死没者追悼平和祈念

館に行く予定です。増田さんの個展にも行かせていただきたく思っています。

今年はじめのテレビ番組で切明千枝子さんが語られていた言葉が、とても心に迫りました。「平和はとても危ういもの。油断したらすぐに風船みたいに逃げていく」

■習い始めた英会話で外国人観光客にも署名活動

堀 照美（上京区）

昨年、11月に前年度務めていた修学院小学校で6年生の子どもたちに、母の学童疎開とヒロシマの被爆体験を話すことができました。いつもは騒がしい子どもたちが、90分間じっくりと耳を傾け真剣に聞いてくれました。その後の質問タイムでは、戦時中の学校生活や、原爆の被害状況など沢山の質問があり、自分自身もしっかり学習して伝えていかなければと気持ちを締めました。

清水寺での6.9行動にも平日も参加できるようになり、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名を観光客に訴えています。習い始めた英会話はまだまだですが、沢山のの人に核兵器の恐ろしさを訴えていこうと思います。

昨年末、広島に帰ったときまた、江波山に行き「母と子の碑」の文を書き写してきました。

碑に寄せて

昭和二十年八月六日午前八時十五分。

一発の原子爆弾は相生橋上空五百数十米において炸裂した。一瞬にして街は阿鼻叫喚の巷と化した。

わが江波町の人的物的被害は中心部に比して軽かったが、時を経ずして、多くの負傷者が見るも無惨な姿で殺到し、その数は、一万人を突破した。

一方、炎熱に耐えかねて本川に入水した無数の死傷者が折からの下げ潮にのって江波町の波打ち際に漂着して来た。

その日、江波町は夏祭りであったが暗転して惨劇の街と化していった。

肉親探し、救援、看護、更には火葬等の諸活動は町内会、警防団、婦人会等、役割分担しながら秋までも続いた。

あれから時は流れて半世紀、今日に至る江波町有縁の犠牲者は推定一万数千名にも及んでいる。

襟を正して、これらすべての犠牲者の魂安かれと

祈ることは現代に生きる者の責務であろう。更には人類の滅亡につながる核兵器の廃絶を願い不戦の決意も新たに、ひいては世界恒久平和の実現を誠実に希求するその証として、心とある人々の浄財をもってこの碑を建立するに至った。

碑面は「平和希望」を礎に、不変の真理である「おやこの愛」と「生命の尊さ」を訴えた。作者は中国広州美術学院教授曹宗恩先生であり、日中友好の架け橋ともなればとの想いも含まれている。

願わくばこの心の子々孫々に至るまで受け継ぎ護り給わんことを。

平成七年八月七日 除幕

江波地区社会低し協議会



また、京都市長選挙で市民の思いをしっかりと聞いてくれる市長の実現のために、全力を尽くします。

■被爆者と被爆二世の肖像画、広島市での個展に挑戦

増田正昭（下京区）

あけましておめでとうございます。

今年も被爆者の肖像画と個展開催、絵画展などを通じて被爆体験の継承、被爆者の思いをたくさんの方に伝えていきたいと思ひます。

昨年も、個展を行うことができ、皆さんからご協力、ご支援で一昨年を上回るたくさんの方が観ていただき、成功することができました、ありがとうございます。昨年以上にたくさんマスコミに取り上げてもらい、すこしでも被爆体験継承に役立ってうれしかったです。

引き続き、2月の広島での個展に取り組んでいます。当初は今まで6年間描いた被爆者肖像画などの展示を計画していましたが、せっかく広島で

やるのに、昨年のオマールさんの法要の時に頼まれた、被爆特別留学生のユソフさん、オマールさんと野営した栗原さん、さらに年末に来日された被爆特別留学生のラゾクさんの長男、被爆二世の方、3人の「肖像画」を2月の個展に展示しようと、年末・年始を返上して描き続けています。2月の個展へのご協力、ご鞭撻をよろしく願いいたします。

昨年に引き続き二世の方も描いていきますのでご協力お願いします。



広島個展会場の galleryG

こういう形ですが、体に気をつけながら頑張ります、昨年同様、皆さんのご協力とご助言をよろしく願いいたします。

■2024年、教育と発信に一層力を入れる年にしたい

宮本ゆき（アメリカ・シカゴ市）

ウクライナでの紛争が終結しないままガザでの虐殺が続き、アメリカの教育現場でイスラエルの政策を批判することに対して大きな圧力があります。また、教室ではユダヤ系の学生もイスラム系の学生も机を並べています。この大事な話を、どのように進め、かつ学生を守るか、毎日教員としての力量が試されているような日々です。

去年はオープンハイマーの公開で核兵器への関心が高まったかと思われましたが、結局同じ「神話」が繰り返されるだけにとどまり、原子力の悲惨さという異なる語りを発信する重要性を感じました。今年にはビキニ70年ですが、アメリカではむしろゴジラ70周年のイベントが各地であるようです。こういう機会でも発信の場として、したたかに使っていこうと思っているところです。また今年は大統領選挙の年でもあります。批判的人種理論を支持するトランプ元大統領が相変わらず強力な大統領候補です。こうした状況

を鑑みて一層教育と発信に力を入れる年にしたいです。従来のシカゴ公立学校での授業も、シカゴ美術館附属大学、そして私の勤務するデュポール大学とも連携する予定です。また、コロナで中断していた研修旅行も12月に行く予定です。この旅行でも学生に発信を意識して学んでもらおうと思っています。



日本で炎上したバーベンハイマーのミームの写真

■今年も核問題にとりくみます！

山根和代（右京区）

昨年は「反核運動と平和・人権教育」（“Anti-Nuclear Movements and Education for Peace and Human Rights”）が『核時代の芸術と活動』（*Art and Activism in the Nuclear Age*: 英国 Routledge 出版）に掲載されました。またイギリスの平和博物館代表のクライヴ・バレット博士との共著「東アジアにおける平和と和解のための博物館」（“Museums for Peace and Reconciliation in East Asia”）が『平和のための博物館：歴史、記憶、そして変化を求めて』（*Museums for Peace: In Search of History, Memory, and Change*: Routledge 出版）に掲載されました。また『平和学事典』（日本平和学会、丸善）には、「平和博物館

運動」が掲載されました。

また『核の秘密に挑む：核文書館における倫理、階層制度、アクセス障壁に関する議論』核の真実プロジェクト報告書（CHALLENGING NUCLEAR SECRECY: a discussion of ethics, hierarchies and barriers to access in nuclear archives）の和訳をしました。

今年もできる範囲で、核問題に取り組んでいきたいと考えています。

■2月4日、次の世代への最高のプレゼントを

吉田妙子（北区）

今年2月4日で、京都から見える景色がガラッと変わる気がしています。最大で最後のチャンス絶対モノにし、福山京都市政を必ず誕生させたいと毎日、必死のパッチでがんばっています。それが次の世代に渡せる最高のプレゼント💖 今年もよろしくお願いします。

吉田妙子

■「常識」を疑う時代に突入した

米重節男（向日市）

新年おめでとうと言っていいのだろうか戸惑うばかりの大ごとの連続で、2024年がスタートしました。元日の夕方、津波からの避難を呼びかけるアナウンサーの突如の絶叫は、2011年3月の東北での大地震と大津波のことを思い起させるに十分でした。翌2日の羽田空港での飛行機の衝突火災事故、さらに3日の小倉の火災と連続した出来事は、今年の先行きを暗示しているのではと思います。私は、上前歯が折れるというアクシデントに見舞われ、なんとも出だしの良くない年明けです。

安倍晋三元首相が銃撃されて亡くなってから、それまで背後にため込まれていた諸問題が、一気に噴き出して来た感があります。これまでは「当たり前」「常識」とされてきたことが崩れているようです。しかし、よく見ると表面に出る事と出されない事があるのに気づきます。

アベノミクスを引き継いだ岸田首相は、やたらと賃上げを最重要課題のひとつにあげ、経済界もこれまでの態度を一変させたかの如く、賃上げが必要と合唱ではありませんか。耳を疑います。政

府も経済界もアベノミクスは破綻したと言っているようなものですが、「賃金は労使交渉で決めるもので、政府にとやかく言われることはない」と言ってきたのは誰だったのでしょうか。

核保有国のロシアやイスラエルが軍事行動で核兵器の使用をちらつかせ、威嚇して核抑止力論が破綻しています。それでも核兵器禁止条約には反対だと言い、核抑止力論で大軍拡に走る日本政府は異常です。能登地震で被災地救援が求められている時に、航空自衛隊は外国との共同訓練を中止せず展開していることも見落としてはなりません。

地震が起こるたびに心配をしなければならな

い原発、さらには外部には影響ありませんと言いながら、原発の被災状況や事故・被害の小出し発表には要注意です。志賀原発は停止中ですが、震度7の地にあるのに本当に大丈夫なのかと疑念は募ります。

選挙のたびに暗躍してきた勝共連合と統一教会の関係、政治資金と政党助成金の関係など、民主主義や人権という価値観など、他にもマスコミが触れない問題が多くあります。これまでは「当たり前」「常識」だったことを疑いただすことが、2024年の課題になりそうだと思う年明けです。

福島取材報告No.4

「東日本大震災・原子力災害伝承館」「いわき震災伝承みらい館」 汚染水放出は農業では実害が出ている

米重節男（向日市）

今回の取材では、いわき市の「いわき震災伝承みらい館」「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察しました。



体験を語り部から聞く(いわき震災伝承みらい館)

津波被害が中心の伝承施設

いわき市薄磯地区に設けられた「いわき震災伝承みらい館」は、津波で被災した中学校の跡地を整備して建てられています。ここは、美空ひばり

の歌で有名になった塩屋崎と灯台がすぐ近くで、海水浴場が前にあります。

この施設では、津波体験者が震災語り部として来場者に当時の様子や体験、津波や地震への教訓を語っています。取材団もお話を聞きました。時間が限られていたのでほんの一部でしたが、当時の状況を聞くことができました。館内には被災時の写真、映像や説明パネル、資料などが展示されています。卒業式当日に津波に襲われて奇跡的に残ったピアノなど、実物も集められていて、その時の状況を知ることができます。語り部の話では、最初の津波の時には避難したが、大きくなかったので、家に物を取りに帰った人や海の様子を見に行った人たちが、2度目の大きな津波で犠牲になったと言われていました。

2011年9月に、新地町の被災者が、漁港地区で一度逃げたのに物を取りに帰って、津波にのまれた人が多くあると言っていたのを思い出し

ました。

今回の能登半島地震の津波でも、同じようなことが報じられており、東日本大震災の津波から学ぶべきことです。

この伝承館はいわき市が作った物で、入場料は無料です。案内の丹治さんはいわき市に在住ですが、この施設が出来たことは知らなかったと言っていました。



(伝承みらい館の展示)

原発事故は関係ないのか

いわき市には他にも小名浜港の大型商業施設内に、津波と地震の記録展示したコーナーがあります。こちらも無料でしたが、共通しているのは地震と津波被害を大きく展示しているものの、原発事故については主ではありません。伝承みらい館の語り部も、地震と津波の教訓や対応などは語っていますが、原発に関しては一言もありませんでした。いわき市は、30 km圏外で原発事故は関係ないというつもりなののでしょうか。福島県内でも、原発事故へのかかわり方に差があると思えました。

事故時の発電所内のリアルを伝える施設

津波で流されて何もなくなった双葉町の海岸部地域を、再開発地区にして企業や施設を誘致しています。この地区の海岸端のエリアには、福島県復興祈念公園が造成中でした。再開発地区に「東日本大震災・原子力災害伝承館」があります。ここは福島県が作った施設で有料（大人600円）です。この施設は、いわき市の伝承館などとは違って、原発事故災害を伝える内容になっています。当時の発電所運転室内部では何が起こっていた

のか、どのように対処していたのか伺うことができます。運転室で使っていたホワイトボードに測定記録・メモが書かれたままの状態で見せてあります。第一原発構内での放射線値が、時間とともに変化して危機的になる状況が記録されています。当時、テレビニュースでは大丈夫と報道していた時間には、すでに大変な事態になっていたことがわかります。その意味では現場のリアルを記録した貴重な資料です。館内語り部講話もありますが、時間の関係でそれはパスしました。



左側が東日本大震災・原子力災害伝承館
正面の奥が復興祈念公園建設地に続く

触れていないこともある

ここは、いわき市の施設とは違って、原発事故をテーマにすえています。災害は地震・津波から始まったとしています。原発が建設されることになった歴史など事故に至るまでのことには触れていません。

広島原爆資料館は、建て替える前の展示は原爆投下後の被害だけでした。広島が軍都で、日本の戦争で重要な都市だった歴史には触れていませんでした。ハワイのアリゾナ記念館の学芸員から、その指摘を受けたのは1991年に真珠湾攻撃50周年ハワイの米軍基地調査で案内してもらった時でした。その後、原爆資料館は改修されて、展示も原爆投下以前の広島市が示されるようになりました。

この原子力災害伝承館も、原発事故以前については触れず、地震と津波から始まったとの構成になっています。なぜ原発がここに建設されたのか、どういう触れ込みだったのか、住民の反応など歴史的事実にも触れるべきでしょう。この点では、

檜葉町宝鏡寺の伝言館は原発事故を見る視点が違います。被害だけでなく、なぜ原発が作られたか経過と住民の運動や当時の世論、国際的視野での原子力をめぐる問題を歴史的にきちんと解説して紹介しています。「伝言館」など被災を紹介する施設はいくつもあります。それらと比較してみると、伝言館は他にはない特徴を持った施設だとわかります。

風評でなく実害が出ている農業現場

取材の最後は、農民連で話を聞くことでした。福島市にある福島県農民連の産直センターを訪ねました。あいにく休業日のため直売店は閉まっていますが、福島県農民連の佐々木健洋事務局長からお話を聞きました。



農民連産直カフェ・直売所

ALPS処理水は汚染水で、海洋放出は漁業だけでなく農業でも影響を受けているとのこと。福島県産の農産物を拒否する国もあり、輸出できないこともあります。また、国内市場で買い付け優先順位は、他地域がなければ福島県産というのが実態。事故直後に比べれば、福島県産と称しても売れるようにはなっているが、価格は戻っていないとのこと。

そこへ汚染水放出で、風評どころか実害がでているのが実態です。

土地の汚染と農業者の被ばく問題

福島県農民連では、県内の会員の農地2500か所を毎年測定しています。他県では測定されていません。4万ベクレル/m²が基準です。浜通り・中通りはほぼ4万です。会津は出ていません。放射線管理区域と同じくらいのレベルで汚染が続

いています。そのため、労働者であれば法律で制限される労働現場も、農業従事者は適用外のため、農地の汚染を知らないままに被ばくする問題もあります。法律が現実にあっていないので、農業者の健康対策についても政府交渉しているが、10年ほど棚晒しになっているそうです。

作物の放射線量は、今ではほとんど検出されないレベルになっています。しかし土壌の被ばくは続いているので、そこで働く農業従事者の被ばくも続いているという問題があります。福島県民は20ミリシーベルトまでの被ばく、隣の県では1ミリシーベルトだというダブルスタンダードの法律が今でも続いています。国の押し付ける被害がこのような形で生じています。

放射能汚染と今の状況

放射線量は12年たって、セシウム134は半減期となり半減しています。セシウム137は半減期30年ですから、まだ先は長くかかります。米の検査は、事故後5年くらいは全袋検査をしていました。今は原発周辺の12町村は全量検査を継続していますが、他は3年くらい前から抽出検査に移行しています。



佐々木健洋事務局長(左から2人目)から話を聞く取材団(手前5人)

事故直後に、チェルノブイリではヒマワリが放射能を吸収するといわれて、福島でも植えていたのは、どうなったか聞きました。日本では粘土質の土が多く、ヒマワリはほとんど効果がなかったそうです。植物によって放射能を吸収するものと、しないものがあります。大豆・原木しいたけ・柿などはよく吸収します。イノシシは、土を掘り返

して餌を食べるので、一番被ばくしている動物です。福島の汚染地の猪肉は食べられません。

農地の除染は、土を上下混ぜ返して作物に放射性物質が移りにくくする対策をしました。帰還困難区域では表面の土をはぎ取り、中間貯蔵施設に佐々木健洋事務局長(左から2人目)から話を聞く取材団(手前5人)

運び込んでいます。農地としては一番大事な部分をとるので、農業が成り立つのか疑問があります。果樹園は耕さないで、上から汚染されていない土をかぶせて遮蔽しています。

新たな取り組みとして、農地の上に太陽光パネルを設置して発電し、下で農作物を育てるソーラーシェアリングを始めています。植物の光使用率は、多くの種類が70%あれば育ちます。それで、この方式が可能となりました。ただ、トウモロコシは100%必要です。

佐々木事務局長の話を知ると、京都では知るこ

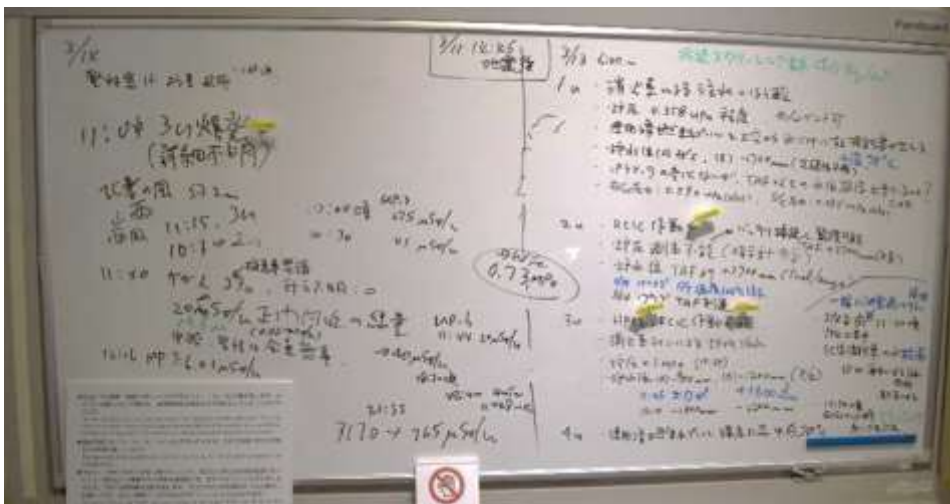
とない実態が良くわかります。汚染水の海洋放出ニュースでは、漁業のことは取り上げるものの、農業への影響には触れません。農業でも、米農家・畑作農家・商品作物農家・果樹園・酪農家の違いで、影響のあり方も異なります。

原発はすぐに廃止を

今回、福島現地調査に行って、原発事故の後始末がどんなに大変なことを実感しました。チェルノブイリのように何もせず放置するのが、一番良いようにも思いましたが、日本ではそうはできないのも現実です。地震のつど、原発は大丈夫かと心配しなければならないのも、異常なことです。原発は即時廃止すべきだと改めて思いました。

この取材報告を詳しく聞きたいという方は、米重節男に連絡ください。出前報告会も可能です。

(福島取材報告おわり)



「東日本大震災・原子力災害伝承館」事故時の記録が残る運転室内のホワイトボード



「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ 伝言館」の「原発悔恨・伝言の碑」

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■なぜ日本は原発を止められないのか？

著：青木美希

紹介 石角敏明（長岡京市）



文春新書 1,210円(税込)

著者は私が以前から注目していた「原発問題」を鋭く追及する新聞記者の一人であった。しかし、本著には「肩書」がなく、氏名しか書かれていない。「あとがき」を読み、理解ができた。著書だけでなく、社を辞めていった記者がいるそうだ。先ず「あとがき」を読んでから、本著を読むのも一興だ。

本著は、ジャーナリストらしく、幅広い分野の人に取材を行い、日本が抱える「原発」を取りまく問題を幅広く取りあげている。「今の福島の復興」問題、原発が始まった頃から始まっていた「安全神話」問題、福島第一原発事故後策定された「新基準」問題、そして「核兵器」と原発をめぐる問題等が取り上げられている。もちろん、私が「会報132号」で紹介した「地震本部長期評価部長、島崎邦彦」氏が、告発した「地震データ改ざん」問題についても、本人にインタビューし、取り上げている。また、政治家「石破氏」「枝野氏」「河野氏」そして「小泉純一郎氏」にもインタビューを行い、「なぜ、日本が脱原発が出来ないのか」を聞いている。そこには「電力会社は本音では、脱原発だが、それを言い出せない要因は何か」を、

政治家の声として紹介している。一つひとつの問題について、著者の取材内容については紹介を差し控えますが、読んで理解されることをおすすめします。著者は、ドイツの「脱原発」に至る経過も紹介し、日本でも「脱原発・自然エネルギーの活用」が充分可能だと提案もしている。新書サイズという読み易い量の内容で、日本が今抱えている、「日本の原発」が抱える問題が幅広く書かれている。問題整理をし、未来の展望を語るうえでは格好の本ではないでしょうか。

Scrap
book

■米での証言活動に手応え 長崎県被爆者手帳の会が報告会

生徒に紙芝居「存在知ってもらえた」

核兵器廃絶への機運を高めるため、米国3都市を巡って被爆証言に取り組んだ「長崎県被爆者手帳友の会」の会員らが長崎原爆資料館で報告会を開いた。団長を務めた朝長万左男会長（80）は「参加した米国市民の多くが核廃絶に賛同してくれたことは、最大の成果だ」と述べた。（竹添そら）

被爆者の体験や思いを世界中の人々に直接語る「ヒバクシャ・ミライ・プロジェクト」の第1弾。



被爆者と2世、3世ら10人が昨年11月6～20日、ノースカロライナ州ローリー、イリノイ州シカゴ、オレゴン州ポートランドの学校や教会などを訪問した。

被爆者の宮田隆さん(84)は「うれしかったのは、学生が話を聞いて涙を流していたこと。もう戦争はやめなくてはいけないと、あらためて感じた」と振り返った。朝長会長は「今後も取り組みを続けることで、米国各地で市民レベルの運動が発生し、核廃絶への動きが活性化すると期待している」と話した。

県被爆者手帳友の会副会長の三田村静子さん(82)は、手作りの紙芝居で被爆がもたらす現実を伝えた。その身を突き動かすのは「誰にも私と同じ思いをしてほしくない」という強い願いだ。

約40年前から紙芝居で「8月9日」を伝える活動を続けてきた。渡米に際し、約20作品の中から選んだのは自身を題材にしたものだった。原爆投下直後に強い光と衝撃を感じたことや、放射線による下痢や発熱に数カ月悩まされたこと。姉やめい、最愛の娘を相次いでがんで亡くし、自身も発病と手術を繰り返した戦後の苦しみを描き、反戦の願いを込めた作品だ。

現地の高校を訪れたときのことだ。「何か質問はありますか」。会場に目を向ける余裕もなく紙芝居を終えて顔を上げると、生徒たちは一様に困惑の表情を浮かべ、沈黙していた。

「気持ちが伝わらなかったとやろか…」。不安な思いを抱えたまま講演会は終わった。数人の生徒が一斉に駆け寄ってきて、「原爆でこんなに長い間、病気になるなんて知らなかった」と、熱心な表情で訴えた。

口をつぐんでいたのは、教科書でも学ばなかった残酷な事実に言葉が見つからなかったからだ。中には、そばに来て声もなく涙する生徒やハグを求めてくる子どももいた。その姿に、日本の戦争加害の歴史を目の当たりにして何も言えなかった、かつての自分が重なったという。「私たち被爆者の存在を知ってもらえて良かった」

(2024年1月15日 西日本新聞)

編集 後記

▼恒例の、会員のみなさんからの新春メッセージ。今年も24人のみなさんから寄稿していただきました。ありがとうございました。ありがとうございました。「心から明けましておめでとう」とは言えない今年の年明け。みなさんに共通した思いでした。この事態を乗り越え、来年こそは希望に満ちたメッセージを交換できるようにしていきます。▼「被爆二世・三世の健康調査アンケー

ト」結果報告書完成の速報を掲載することができました。正直、ほっと一息です。報告書を基にした2024年度活動を大いに展開していきましょう。▼米重さんの「福島取材報告」が最終回となりました。4回にわたる報告ありがとうございました。詳細なレポートを私たちも有効に活用して活動に活かしていけるようにしたいと思います。今年もよろしく願いいたします。(平)

2024年2月(如月・きさらぎ)行事カレンダー

月	日	曜	行 事
2	1	木	
	2	金	キンカン行動
	3	土	節分
	4	日	京都市長選挙投開票 立春
	5	月	
	6	火	6・9 行動
	7	水	
	8	木	
	9	金	6・9 行動 キンカン行動
	10	土	
	11	日	建国記念日
	12	月	振替休日
	13	火	増田正昭「被爆者の肖像画」個展・広島会場 → 2月18日(日)まで ギャラリートーク「語らなかった両親を描く」
	14	水	バレンタインデー
	15	木	増田個展ギャラリートーク「南方特別留学生」
	16	金	キンカン行動
	17	土	映画『SilentFallout』上映会(14時・龍谷大学大宮キャンパス) 増田個展ギャラリートーク「絵画と文学が拓く被爆体験伝承の化膿性」
	18	日	京都マラソン
	19	月	安保法制廃止をめざす行動(18時30分・市役所前)
	20	火	
	21	水	
	22	木	京都「被爆二世・三世の会」2月例会(18時30分・ラポール京都)
	23	金	天皇誕生日 キンカン行動
	24	土	
	25	日	
	26	月	
	27	火	
	28	水	3・1ピクニデー被災70年シンポジウム(14時・静岡市)
	29	木	3・1ピクニデー日本原水協全国集会(13時・静岡市)